答　辞

冬の寒さも和らぎ、春の訪れが感じられるこの良き日、私達三年生一同は、卒業という大きな節目を迎えました。本日は、私達のために素晴らしい卒業式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。先生方にご臨席いただき、無事に卒業できることを卒業生一同を、代表し、厚く御礼申し上げます。

思い返せばこの三年間は多くの思い出があり、長いようで短い、充実した日々でした。まだ履き慣れないローファーでこの体育館を歩いた入学式。これから始まる高校生活に期待と不安を胸に臨みました。また、校外レクや陸上競技会など様々な行事もありました。これらの行事を通して楽しい時間を共有するうちに少しずつ私たちの友情が深まっていったように思います。

二年生の秋には、多くの級友が楽しみにしていた修学旅行がありました。修学旅行実行委員を務めたこともあり、私もとても楽しみにしていた、特に心に残っている行事です。中でも長崎で行った平和学習では、被爆された方から直接お話を伺い、想像を絶する悲惨さを知り、私達の今ある日常や平和の尊さを改めて感じ、今を生きる者として平和を持続させることの大切さを学びました。平和学習のほかにも長崎での班行動では、異国の文化や歴史に触れることができました。夜には仲間内で盛り上がりすぎたところを先生に叱られたのも良い思い出です。こうして振り返ってみると、修学旅行の四日間は、本当にかけがえのない思い出となっているのだと改めて感じます。

また商業科の三年生は商品開発という授業でゼロから開発した商品を文化祭で販売しました。そのために、限られた期間の中で製造委託する企業を探したり、会社設立や事業報告の準備をしました。設立した会社の副社長であった私は、間に立って人を動かしたり、仕事の割り振りや分担を決めたりする役割も担いましたが、大変だったことは本当に多くありました。しかし、それらは今まで授業で学んだことや、取得した資格の知識を実践できる、他では得難い経験となりました。

私の高校生活で一番頑張ったことは、全商二級や一級、日商の資格取得を目標に勉強したことです。しかし、私自身の努力もさることながら、先生方や一緒委に資格取得を目指した仲間の存在がとても大きかったのだと思います。先生方は放課後の補習で分からないところを分かるようになるまでとことん付き合ってくださいました。簿記が苦手でよく困っていた私に友達は快く手を差し伸べて教えてくれました。このように周りの人々に助けられながら受けた検定試験すべてに合格することができました。これは私の誇りです。ただ合格したからというだけではなく、まわりの多くの人に助けられ取得できた資格だからこそ、よりいっそう誇りに思っています。

私が本校の三年間で学んだことを一言で言うならば、性は相近し、習えば相遠ざかるです。

みなさんがご存知の孔子の言葉です。人間の先天的な素質は似たりよったりの近いものだが、後天的に備わった習慣や教養によって大きなへだたりができるという意味です。私達は入学した時はそれぞれ同じスタートラインに立っていたはずです。しかしこの三年間、勉強や、部活動などの学校生活の中で得たものは、それぞれの立場や環境、経験などで違っていると思います。私も本校で得たものを活かし、大学では更に知識を深め将来につなげられるようこれからも努力を重ねていきたいと思います。

世界は、自国ファースト精神や考え方の違いから起こった戦争など混沌とした状態が続いています。そのような中、平和と共生のために私たちが活躍し貢献してゆけるように精進してゆきたいと考えています。

最後になりましたが、私達が高校生活三年間を無事におくることができ、今日という日を迎えることができたのも最後まで支えてくれた家族の存在があってこそです。多くの心配や迷惑をかけてきましたが、これからは将来に向けてしっかりと自分の決めた道を歩んでいきます。これからも温かく見守ってください。十八年間育ててくれて本当にありがとうございました。そして私と友達になってくれ、高校生活を支えてくれたみんな、ありがとう。

改めまして校長先生をはじめ、多くの先生方への感謝を申し上げると共に、千葉経済大学附属高等学校の更なる発展と皆様のご健勝をお祈りし、答辞といたします。

令和二年三月一日

卒業生代表　曽根崎　空良